# ○　令和2年度　学校教育自己診断集計結果

| 評価ジャンル | 生徒 | 1 | 2 | 3 | 4 | 肯定 | 否定 | 肯定 | 否定 | 保護者 | 1 | 2 | 3 | 4 | 肯定 | 否定 | 肯定 | 否定 | 教員 | 1 | 2 | 3 | 4 | 肯定 | 否定 | 肯定 | 否定 | 結果と考察 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学校生活 | 1 学校へ行くのが楽しい | 38 | 35 | 10 | 5 | 82.0% | 16.0% | 82.3% | 15.7% | 1 子どもは学校へ行くのを楽しみにしている。 | 33 | 43 | 8 | 3 | 86.0% | 12.0% | 89.5% | 7.0% | 2 教員は行事や特別活動が魅力あるものとなるよう工夫、改善を行っている。 | 19 | 19 | 3 | 1 | 90.0% | 9.0% | 90.0% | 9.0% | ・生徒、保護者については前年度とほぼ同じ数値である。生徒の『14学校行事は楽しみである。』については5%近く肯定率が上がっている。事前学習で見通しを持つことができるように教員が工夫していることも要因であると考えられるが、コロナ禍の中で一つひとつの行事に対する生徒の思いが変化しているとも考えられる。教員の『生徒会の運営と活動が自主的にできるよう、適切な支援が行われている。』が10%以上昨年度より肯定率が向上している。生徒会の生徒だけではなく、委員会活動全般において主体的な活動が定着してきていると考えられる。 |
| | 14　学校行事は楽しみである | 50 | 28 | 5 | 5 | 87.0% | 10.0% | | | 20 学校行事は、生徒に合わせて工夫されている。 | 45 | 37 | 2 | 0 | 93.0% | 2.0% | | | 7 生徒会の運営と活動が自主的にできるよう、適切な支援が行われている。 | 14 | 24 | 3 | 1 | 90.0% | 9.0% | | | |
| | 15 生徒会・委員会活動で学校がよくなっていると思う。 | 30 | 39 | 10 | 9 | 78.0% | 21.0% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業 | 2授業はわかりやすい | 36 | 42 | 7 | 3 | 87.0% | 10.0% | 85.0% | 12.7% | 6 子どもは、授業がわかりやすいといっている。 | 26 | 49 | 11 | 0 | 85.0% | 12.0% | 85.0% | 12.0% | 1 教員はわかりやすい授業となるように授業改善や工夫を行っている。 | 14 | 24 | 4 | 0 | 90.0% | 9.0% | 81.0% | 17.7% | ・生徒の『3授業中に自分の考えを伝える機会が多い。発表することが多い。』が80%を超え、『4先生は授業の内容や考え方など工夫している。』が僅かながら下がってはいるが、授業に関する項目を合わせた肯定率が5%向上した。新学習指導要領に向けたシラバス作成、主体的、対話的、深い学びへの意識の表れではないかと考えられる。一方では教員の『自立活動の指導は生徒が興味を持って主体的に取り組めるように工夫している。』がわずかではあるが、昨年度よりも肯定率が下がっている。引き続き課題として、自立活動への理解を深める必要がある。 |
| | 3授業中に発言や発表することがある。 | 31 | 40 | 13 | 4 | 80.0% | 18.0% | | | | | | | | | | | | 4　自立活動の指導は生徒が興味を持って主体的に取り組めるように工夫している。 | 7 | 22 | 10 | 3 | 68.0% | 30.0% | | | |
| | 4 先生は授業の内容や教え方など工夫している。 | 38 | 40 | 7 | 3 | 88.0% | 10.0% | | | | | | | | | | | | 6 コンピュータ等のICT機器が、各教科の授業などで活用されている。 | 15 | 21 | 6 | 0 | 85.0% | 14.0% | | | |
| 進路指導 | 5 将来の進路や生き方について考える機会がある。 | 50 | 31 | 4 | 3 | 91.0% | 7.0% | 90.0% | 8.3% | 13 学校は将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている。 | 41 | 37 | 8 | 0 | 89.0% | 9.0% | 89.0% | 9.0% | 12 生徒が将来の進路や生き方について考える機会を多く設けている。 | 22 | 17 | 2 | 1 | 92.0% | 6.0% | 93.0% | 4.7% | ・昨年度に続き、3属性ともに高い肯定率となっている。中でも『学校は進路についての情報を知らせてくれる。』では肯定率が96%である。<br>・保護者においては『13学校は将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている。』の項目が昨年度より8%近く下がっている。本校教員の進路指導を初め、進路についての学習内容や情報を保護者によりわかりやすく伝える必要があると思われる。<br>・教員においては3項目とも90%を超える高い肯定率となっている。進路指導部を中心として、全職員で進路指導の業務にあたっていることが数値として表れていると考えられる。 |
| | 6 学校は進路についての情報を知らせてくれる。 | 53 | 32 | 1 | 2 | 96.0% | 3.0% | | | | | | | | | | | | 13 興味・関心、適正に応じて進路選択が出来るよう、きめ細かい指導を行っている。 | 22 | 17 | 2 | 1 | 92.0% | 6.0% | | | |
| | 7 先生以外の外部の方から、進路に関する話をきくのはためになったと思う。 | 48 | 26 | 11 | 3 | 83.0% | 15.0% | | | | | | | | | | | | 14 進路指導において、福祉・労働機関等の関係諸機関と緊密な連携ができている。 | 24 | 16 | 2 | 0 | 95.0% | 2.0% | | | |
| 教員について | 8 担任の先生に、困っていることや悩みを話せる。 | 34 | 34 | 14 | 5 | 76.0% | 20.0% | 82.8% | 14.5% | 5 教職員は、子どもの学習状況や努力を適切・公平に評価している。 | 45 | 41 | 1 | 0 | 98.0% | 1.0% | 90.0% | 6.0% | 22 教職員の服務規律への自覚が高い。 | 10 | 25 | 4 | 3 | 82.0% | 16.0% | 88.8% | 9.3% | ・生徒の項目を合わせた肯定率が微増している。各項目ごとでは僅かながら下がっているものもあるが、『9担任の先生以外に、気軽に困っていることや悩みを話せる。』の項目が15%以上向上している。学年サポーターの教員の配置やランチタイム相談室などの取り組みが要因であると考えられる。教員の『11相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教員にも相談することができる。』の肯定率の高さからも相談の態勢が整ってきていることが窺える。 |
| | 9 担任の先生以外に、気軽に困っていることや悩みを話せる。 | 33 | 35 | 15 | 5 | 76.0% | 22.0% | | | 17 教職員は、いじめなど子どもが困っていることがあれば、しっかり応じてくれる。 | 41 | 36 | 6 | 0 | 88.0% | 6.0% | | | 10 教職員は生徒の意見をよく聞いている。 | 18 | 21 | 2 | 1 | 92.0% | 6.0% | | | |
| | 10 先生はいじめなどについて困っていることがあれば、真剣に対応してくれる。 | 40 | 40 | 4 | 4 | 90.0% | 8.0% | | | 23 教職員は、子どもの障がいを理解している。 | 42 | 32 | 9 | 1 | 84.0% | 11.0% | | | 11 相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員にも相談することが出来る。 | 23 | 17 | 1 | 1 | 94.0% | 4.0% | | | |
| | 17 先生は、自分のことをよく理解してくれている。 | 34 | 41 | 7 | 5 | 84.0% | 12.0% | | | 25 教職員は、すべての教育活動において、子どもの人権を尊重している。 | 43 | 34 | 6 | 0 | 88.0% | 6.0% | | | 8　教員は生徒の人権を尊重し、日常の教育活動を行っている。 | 20 | 17 | 5 | 0 | 87.0% | 11.0% | | | |
| | 18 先生は、みんなの意見を聞いてくれる。 | 39 | 37 | 9 | 3 | 86.0% | 13.0% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 19 学校生活についての先生の指導は納得できる。 | 36 | 40 | 6 | 6 | 85.0% | 12.0% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 人権教育（道徳） | 11 いのちや人権の大切さについての学習はわかりやすい。 | 46 | 34 | 5 | 3 | 90.0% | 8.0% | 90.5% | 7.5% | 16 学校は、生命を大切にする心や人権を尊重する態度を育てようとしている。 | 28 | 49 | 5 | 0 | 88.0% | 5.0% | 88.0% | 5.0% | 5　道徳教育は、年間計画に基づき、継続して行っている。 | 7 | 19 | 14 | 2 | 61.0% | 37.0% | 73.0% | 25.0% | ・生徒、保護者の2属性は比較的高い肯定率となっているが、教員は70%台となっている。特に『6道徳教育は年間計画に基づき、継続して行っている。』の肯定率が低い。特別の教科「道徳」の実施にあたり、計画的に取り組みを考える必要がある。 |
| | 12 社会のルールについての学習はわかりやすい。 | 49 | 32 | 5 | 2 | 91.0% | 7.0% | | | | | | | | | | | | 9　教員は生徒が命の大切さや人権尊重の態度を身につけるよう配慮している。 | 21 | 15 | 5 | 1 | 85.0% | 13.0% | | | |
| 性に関する指導 | 13 性についての学習は、わかりやすい。 | 40 | 37 | 7 | 4 | 87.0% | 11.0% | 87.0% | 11.0% | 18 性に関する指導は、段階を追って計画的に実施されている。 | 28 | 41 | 7 | 0 | 79.0% | 8.0% | 79.0% | 8.0% | 3　性に関する指導は、系統的・計画的に行われている。 | 10 | 22 | 7 | 3 | 75.0% | 23.0% | 75.0% | 23.0% | ・生徒、保護者ともに高い肯定率となっているが、90%台から70%台まで下がっている。「性に関する指導」については今年度、委員会から学年での検討実施とした。学年の教員が生徒の実態を把握した上での学習となり、生徒、保護者には理解を得たが、指導の体制が変化したことで教員の肯定率が下がったと考えられる。コロナ禍の中で、本格的な学校生活が6月スタートだったことも系統的に行うことの難しさにつながったとも考えられる。学年で生徒の実態に合った指導を年度の早い時期から計画することが必要である。 |
| 個別の支援 | | | | | | | | | | 21 学校は個別の指導計画・教育支援計画について、機会を設けて説明をしている。 | 47 | 36 | 2 | 0 | 95.0% | 2.0% | 94.5% | 2.0% | 18 支援計画・指導計画はニーズを踏まえ作成し、保護者に開示・説明している。 | 22 | 18 | 1 | 1 | 94.0% | 4.0% | 94.0% | 4.0% | ・昨年度に続き、保護者、教員ともに高い肯定率である。校内での支援計画・指導計画についての位置付けが明確になり、作成をする上での計画についても議論がなされた。保護者への丁寧な説明も継続して行われている。 |
| | | | | | | | | | | 22 個別の指導計画・教育支援計画は、本人・保護者のニーズを踏まえ作成されている。 | 46 | 37 | 2 | 0 | 94.0% | 2.0% | | | | | | | | | | | |
| 生徒評価 | | | | | | | | | | 4 通知表は、子どもの学習の達成度を適切に評価できるように工夫されている。 | 39 | 45 | 1 | 0 | 95.0% | 1.0% | 95.0% | 1.0% | 25 教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。 | 10 | 24 | 7 | 1 | 80.0% | 18.0% | 80.0% | 18.0% | ・2、3年生の支援計画、指導計画の作成において、年度の引継ぎが円滑になってきていることが教員の肯定率の微増に表れている。 |
| 評価ジャンル | 生徒 | 1 | 2 | 3 | 4 | 肯定 | 否定 | 肯定 | 否定 | 保護者 | 1 | 2 | 3 | 4 | 肯定 | 否定 | 肯定 | 否定 | 教員 | 1 | 2 | 3 | 4 | 肯定 | 否定 | 肯定 | 否定 | 結果と考察 |
| 危機管理 | 16 地震や火災の避難訓練の学習はわかりやすい。 | 42 | 37 | 6 | 3 | 89.0% | 9.0% | 88.5% | 11.5% | 9 地震や台風などの場合の対応について、子どもや保護者に周知されている。 | 53 | 31 | 2 | 0 | 95.0% | 2.0% | 92.5% | 3.5% | 21 災害等に対して迅速かつ適切な対処ができるよう、防災計画が整備されている。 | 23 | 17 | 1 | 1 | 94.0% | 4.0% | 91.5% | 6.0% | ・3属性とも高い肯定率となっている。計画的に地震、火災避難訓練が行われていることが、生徒、教員の肯定率の高さに表れ、引き渡し訓練や行事予定での案内により保護者への周知ができていると考えられる。 |
| | | | | | | | | | | 19 学校では、子どもに関するプライバシーが守られている。 | 43 | 36 | 5 | 0 | 90.0% | 5.0% | | | 19　生徒の個人情報に関する管理システムが周知されている。 | 15 | 23 | 2 | 2 | 89.0% | 8.0% | | | |
| 家庭との相互理解 | | | | | | | | | | 2 学校は教育活動全般について、子どもや保護者の願いによく応えている。 | 31 | 52 | 3 | 0 | 94.0% | 3.0% | 88.4% | 9.0% | | | | | | | | | ・保護者の『8学校は保護者の子どものことについての悩みや相談に適切に応じてくれる。』が僅かながらではあるが肯定率が上がっている。これについては、生徒の『9担任の先生以外に、気軽に困っていることや悩みを話せる。』の肯定率の増加に連動していると考えられる。 |
| | | | | | | | | | | 7 学校が保護者に出す文書・事務連絡等がわかりやすい。 | 33 | 47 | 7 | 0 | 91.0% | 8.0% | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | 8 学校は、保護者の子どものことについての悩みや相談に適切に応じてくれる。 | 42 | 37 | 4 | 2 | 90.0% | 6.0% | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | 10 学校は、教育方針をわかりやすく伝えている。 | 43 | 38 | 5 | 0 | 92.0% | 5.0% | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | 14学校の授業参観や学校行事に積極的に参加している。 | 30 | 36 | 18 | 3 | 75.0% | 23.0% | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 情報発信　地域連携 | | | | | | | | | | 3 学習の内容・学校生活の様子を懇談や連絡帳等によって、知ることができる。 | 45 | 38 | 4 | 0 | 94.0% | 4.0% | 80.0% | 14.0% | 16 情報提供の手段として、学校のホームページが活用されている。 | 8 | 26 | 7 | 1 | 80.0% | 18.0% | 85.0% | 13.5% | ・保護者の『11学校のホームページはわかりやすい。』が4%下がっている。数値としては僅かであるが、コロナ禍においてホームページでの情報発信が多くなり、発信する情報の種類が多岐に渡ったことが数字として表れたのではないかと思われる。また、保護者の『15学校は、保護者地域の人たちから意見を聞く機会を持っている。』が5%肯定率が下がっている。学校運営協議会実施の周知、また、コロナの終息後における地域との関わりを計画していく必要がある。 |
| | | | | | | | | | | 11 学校のホームページはわかりやすい。 | 26 | 41 | 15 | 1 | 76.0% | 18.0% | | | 17 教育活動に必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている。 | 11 | 27 | 3 | 1 | 90.0% | 9.0% | | | |
| | | | | | | | | | | 12 学校以外の相談機関の情報を学校から入手できる。 | 18 | 46 | 20 | 0 | 72.0% | 22.0% | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | 15 学校は、保護者や地域の人たちから意見を聞く機会を持っている。 | 23 | 46 | 10 | 1 | 78.0% | 12.0% | | | | | | | | | | | |
| 交流及び共同学習 | | | | | | | | | | 24　学校は、子どもが地域や企業、他の学校など社会と交流する機会を設けている。 | 43 | 35 | 5 | 0 | 89.0% | 5.0% | 89.0% | 5.0% | 15 学校は、地域の行事参加等の機会を設け、地域との連携に取り組んでいる。 | 7 | 25 | 10 | 0 | 75.0% | 23.0% | 75.0% | 23.0% | ・保護者の数値はほぼ変動していないが、教員は僅かながら肯定率が下がっている。コロナ禍により、地域と連携した物販等の取り組みが実施できなかったことが理由であると考えられる。 |
| 学校組織 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 20 いじめが起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている。 | 21 | 17 | 4 | 0 | 90.0% | 9.0% | 69.4% | 29.0% | ・各項目それぞれが僅かではあるが肯定率が下がっており、項目をまとめた数値では7%さがっている。<br>コロナ禍において教員間のコミュニケーションが例年に比べて難しい状況ではあったが、経験の少ない教員へのサポートは継続して学校の課題とするべきである。 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 24 会議が教職員間の意思疎通や意見交換の場として有効に機能している。 | 11 | 16 | 11 | 4 | 64.0% | 35.0% | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 26 教職員は学校の運営や改善に役立つよう、積極的に意見や考えを発信している。 | 9 | 21 | 10 | 2 | 71.0% | 27.0% | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 27 教員がどんなことでも気軽に相談し合えるような職場の人間関係ができている。 | 9 | 22 | 7 | 4 | 73.0% | 25.0% | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 28 初任者等、経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制が取れている。 | 6 | 15 | 16 | 5 | 49.0% | 49.0% | | | |
| 研修 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 23　研修・研究に参加した成果を、他の教員に伝える機会が多く設けられている。 | 6 | 20 | 13 | 3 | 61.0% | 37.0% | 61.0% | 37.0% | ・肯定率が7%下がっている。コロナ禍で研修の多くがWEBでの開催となり、研修・研究への参加が取りやめになったことも多かったことが要因である。 |